

平成28年度 南丹市立美山中学校の取組と学校関係者等からの評価と次年度に向けて

1 学校教育目標

- 「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」
 - 人権の尊重を基盤として、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成を図る -
 《目指す生徒像》
 ○ 主体的に学ぶ生徒の育成（知）【よく考える】
 ○ 思いやりのある生徒の育成（徳）【よく思う】
 ○ 心身ともに健康で勤労と責任を重んじる生徒の育成（体）【よく活動する】

2 学校・生徒の現状

- (1) 生徒は純朴で、全般的に生活、学習ともに真面目に努力する。落ち着いた学校生活を送ることができている。基礎・基本の徹底を図るとともに、主体的に学習に取り組む意欲や積極性を育てる取組を進めていかなければならない。
 (2) 伝統的に言語力の向上に力を入れているが、各教科・分掌・学年等と連携して取り組むなどの工夫や見直しの必要がある。
 (3) 学校は地域との結びつきが強く、保護者や地域からの協力を得られるが期待も大きく、それに応える努力が必要である。

3 重点目標・取組・評価等

学習指導	具体的な取組等	学校関係者等からの評価・意見等について
基礎基本の定着・徹底 主体的な学ぶ意欲や積極性の育成 自学自習の習慣化 言語力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員で、学習目標やねらいを明確に示した授業を行う。生徒が主体的に目的を持って学習に取り組むための手立ての一つとして、全校的に実践する。また、全教科の授業で、言語活動を充実させ、筋道を立てて考える力や知識を活用する力を育成する。 ○「輝きの時間（総合的な学習の時間／言語力・表現力の育成）」の取組を、小論文グランプリの取組と絡めて、全教職員で指導する。 ○情報機器を授業の中で積極的に活用し、効率的かつ効果的な授業のあり方を研究し、学習記録を残す。 ○家庭学習の充実を図る取組（自主学習の取組）を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に授業研究会や研修会を持ち、他教科・小学校からの学びを授業改善に活かそうと努めている。 ○全教職員が小論文・作文指導の取組を通して、各賞に入賞するなど生徒の言語力を伸ばす取組の成果が見られた。
<p>■次年度に向けた課題の克服・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業については、学習のめあてやゴールを明確に提示し、情報機器を効果的に活用したり、ペアやグループなど学習形態の工夫や意欲をもって学べる授業展開の工夫をして、「生徒がわかりやすい」と答える授業になるよう引き続き取り組んでいく。 ○学力診断テスト等の結果分析を全教職員で共有し、個々の生徒へ面談等を通して対応していく。次期学習指導要領を踏まえ、豊かな深い学びにつながるよう指導力の向上を図る。 ○全員が「家庭学習2時間以上」を目標にして、課題の出し方等を工夫して、家庭でも主体的な学習ができるよう指導を継続する。漢字検定や英語検定などの受験を積極的に呼びかける。 		

生徒指導 人権教育	具体的な取組等	学校関係者等からの評価・意見等について
生徒理解 生徒会活動の充実 人権・同和教育の充実 いじめ問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態やアンケートから、自己肯定感や対人関係の悩み等を把握し、学年を中心に面談等を実施し対応・支援を行う。 ○行事（体育祭・文化祭）の取組だけでなく、学習取組にも目を向けさせて、生徒たちの主体的な・自治的な取組にできるよう支援する。 ○QUアンケート・いじめアンケートや教育相談等を活用し、ソーシャルスキルトレーニング等の学習も積極的に取り入れて、人間関係トラブルの解消やいじめの未然防止に取り組む。 ○学校生活の充実・改善やリーダー育成の育成を図るために、各学年と分掌が連携をとって、学級活動や生徒会活動が生徒自らが主体的に取り組めるものにする。 ○非行防止教室や薬物乱用防止教室を関係機関と連携し実施し、自分のこととしてふり返らせる・考えさせる。 ○スクールカウンセラーや市子育て支援課、児童相談所等との機関と連携を密にしながら、随時の教育相談活動を行うなど、個々の生徒の状況把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭での合唱や劇のできばえが素晴らしい。生徒の表現力が発揮されている。 ○小学校からクラス替えもなく進級してくるので、固定的な評価ではなく、それぞれのよさが見える取組や支援をする中で、それぞれの生徒を輝かせてほしい。 ○いじめがないと思わない生徒もわずかにいるので、そんな生徒に対しても、きめ細かに対応できる取組や組織体制であってほしい。
<p>■次年度に向けた課題の克服・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会の取組に連動させて、自学自習を目指した自主学習の取組をさらに進める。特に、質の高い家庭学習の取組ができるよう家庭とも連携して推進・啓発するとともに、「わかりやすい授業」ができるよう工夫改善を図る。 ○QUテストの活用や教育相談、生徒・保護者アンケートを通して生徒の内面理解ときめ細かな指導を継続する。生徒や保護者から信頼されるよう自己の指導力の向上を目指していく。特に、人間関係トラブルの解消やいじめの未然防止に関して生徒・集団への指導、家庭や関係機関との連携、小学校との連携を密にする。 ○学級・生徒会活動等を通して、一人一人の成長を支え可能性を伸ばすとともに、質の高い集団のづくりができる学級経営力を身につけた教職員を育てる。 		

地域・小中連携	具体的な取組等	学校関係者等からの評価・意見等について
保・小・中・高 ・地域連携 地域へ情報発信 学校支援地域本部事業活用 保護者連携	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校ブロック全体の研修会、授業研究会、教科別研修会等を実施し、校種間連携を深める取組を行う。また、各教科における9年間を見越した系統性のある指導計画を研究・作成する。 ○アンビシャスタイム講演会を実施し、地元高校生や地域の人に話を聞き、生き方や美山について学ぶ。 ○地元大学の訪問・職場体験学習、ふるさと学習、聞き書き学習、土曜講座等を実施する。 ○家庭訪問・三者懇談・二者面談（教育相談週間）等を行い連携を図る。 ○学校だよりの全戸配付、HPを活用した学校取組の報告、新聞・ケーブルテレビへの取材依頼や情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○保・小・中連携を中核に、小中連携して「美山学」の取組の推進を図ることが必要である。 ○保護者の望みは高いと思われる。保護者の思いや考えを100%応えるのは難しいが、先生方も中学生もよく頑張ってくれていると考えている。 中学生ともなると、保護者の目線と生徒の目線との違いがあるので、保護者・生徒の評価の乖離はある。「保護者の評価の低い項目＝生徒の評価が低い」ということではないと思う。 ○保護者の回答で「わからない」と応えている部分については、家庭で子どもとの会話が少くないということでもあると思う。家庭で保護者自身が考えていかなければならないこともある。 ○個々の生徒の状況を把握し、課題のある生徒や不登校傾向にある生徒へ連携した対応してほしい。 ○地域の事業やイベントに積極的に参加し、美山のことを考える機会にしてほしい。部活動等で忙しいとは思いますが、地域の取組に参加することで学べることはあると考えている。 地域の側も「参加してありがとう」というだけでなく、感想等を交流する機会をもって、中学生の思いや意見を聴くことも必要だと考えている。 ○生徒が減少する中ですが、それぞれの部で、目標をもって意欲的に活動ができるよう、異年齢集団の中での学びの機会になるよう指導できる学校体制をつくってほしい。 ○生徒との人間関係づくりの面で、学級担任だけでなく、部活動を通して気軽に相談できたりする信頼関係が作り出せるとよい。
<p>■次年度に向けた課題の克服・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中の連携をより一層密にして、児童・生徒の「熟議」等を通して、課題の共有化を図り、9年間を見通した教育活動が展開できるようにする。 ○美山中ブロックの研究会を中心に、教科や領域での連携を密にし、授業改善や生徒指導面などの実践の交流を含めた公開授業・研究会を引き続き行う。状況に応じて、教員が校種を越えて授業を行い、小中のスムーズな連携・移行と指導力の向上を目指す。 ○地域学校協働本部事業や各地域振興会と連携して、地域や地域の人と触れ合ったり、地域に貢献したり、地域のよさが実感できる・地域とともに学べる取組を工夫改善していく。 ○家庭訪問や面談などの様々な機会を通して、保護者の皆様の考え・思いを聞かせていただきながら、学校としてできることをしっかりと考えて取り組む。 		

4 本年度のまとめとして

生徒や保護者・地域の学校評価アンケートの集計結果や学校関係者（学校評議員等）の評価も、概ね学校の取組等について肯定的な評価（70%～80%程度）をいただきました。本校の落ち着いた学習環境の中で、教職員の指導や支援を通して、生徒たちが学校・地域で頑張っている姿を見ていただいている結果だと考えています。

引き続き小学校との連携を軸にして、保護者や地域の人と「美山の子ども未来像」を熟議を通して共有していきたい。そして、地域とともに歩む、地域に開かれた安心・安全な学校、地域で自慢してもらえる、生徒が自慢できる学校づくりを目指していきます。

そのためにも、今年度どんな取組をしてきたのか、どこまで取り組めたのかをきちんと振り返り、その成果と課題を明らかにして一年を締めくくり次年度へ繋いでいけるよう、教職員一丸となって取り組んでいきます。